

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米国

アジアからの需要増が牛肉輸出をけん引

牛肉輸出は過去最高、アジア需要がけん引

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2022年8月の牛肉輸出量は14万6783トン（前年同月比0.4%増）と引き続き好調に推移し、1～8月の累計輸出量も109万5989トン（前年同期比5.9%増）と過去最高を記録した（表）。

輸出先別に見ると、8月は中国向けおよびフィリピン向けの輸出量が前年同月比で大幅に増加した。特に中国の牛肉需要は旺盛で、8月までの累計輸出量は前年同期比30.0%

増となり、対前年比増加量では全体の76.3%を占めている。USDAは「アジア上位10カ国への輸出増が著しく、対前年比増加の85%を占めた」ことを理由に、23年の輸出見通しを引き上げた。

こうした状況について、米国食肉輸出連合会（USMEF）のホルストロム会長は「われわれは幅広い市場を開拓する大切さについてよく話すが、8月の輸出実績はそれを見事に物語っている」と述べ、米ドル高の為替相場に直面する中、主要輸出先以外の市場開拓を続ける重要性を強調した。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2021年 8月	22年 8月	前年同月比 (増減率)	シェア	22年 (1～8月)	
					前年同期比 (増減率)	
日本	34,823	31,735	▲8.9%	21.6%	252,920	▲0.1%
中国	26,692	31,554	18.2%	21.5%	200,992	30.0%
韓国	30,070	30,718	2.2%	20.9%	248,234	2.6%
カナダ	10,724	11,498	7.2%	7.8%	83,644	1.0%
メキシコ	12,662	11,359	▲10.3%	7.7%	80,186	▲16.2%
台湾	9,148	8,409	▲8.1%	5.7%	67,035	14.6%
香港	6,014	3,843	▲36.1%	2.6%	22,301	▲43.7%
フィリピン	1,430	2,661	86.1%	1.8%	17,447	40.8%
その他	14,686	15,007	2.2%	10.2%	123,229	27.7%
合計	146,249	146,783	0.4%	100.0%	1,095,989	5.9%

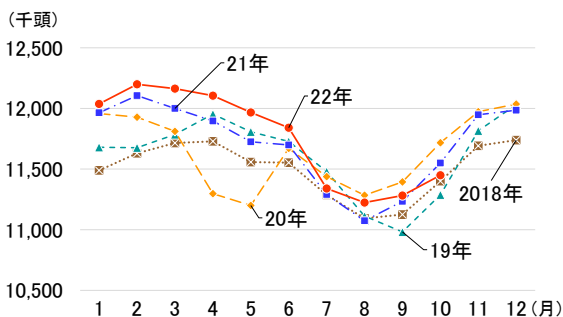
資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注：枝肉重量ベース。

フィードロット飼養頭数、今年初めて前年同月を下回る

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2022年9月のフィードロット導入頭数は208万頭（前年同月比3.8%減）と前年同月を下回った。しかし、出荷頭数は186万頭（同0.4%増）とわずかに増加したことで、22年10月1日時点のフィードロット飼養頭数は1144万9000頭（同0.9%減）と、1月以降初めて前年同月を下回った（図1）。一方、9月のと畜頭数が283万9000頭（同3.9%増）となったことで、USDAは、干ばつによると畜頭数増加や平均枝肉重量の増加を理由として、22年の牛肉生産量見込みを5万9000トン引き上げた。

図1 フィードロット飼養頭数の推移



資料：USDA [Cattle on Feed]

注1：1000頭以上規模のフィードロットが対象。

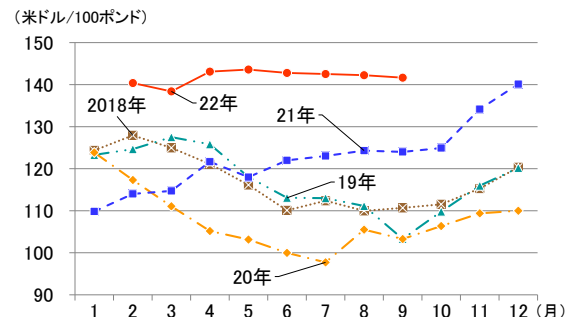
注2：各月1日時点。

肥育牛価格、堅調な需要により高値で推移

米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、2022年9月の肥育牛価格は100ポンド当たり141.66米ドル（1キログラム当たり466円：1米ドル＝149.26円^(注)、前年同月比14.2%高）となり、堅調な需要に支えられ高値で推移しつつも、前月をわずかに下回った（図2）。一方、卸売価格（カットアウトバリュー）は期末在庫が増加する中で100ポンド当たり254.11米ドル（1キログラム当たり836円）と前月比で10.79米ドル（1611円）下落したことから、USDAは22年第4四半期の肥育牛価格予測を4米ドル（597円）引き下げた。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

図2 肥育牛価格の推移



資料：USDA [Livestock & Meat Domestic Data]

注1：ネブラスカの相対取引価格、チョイス級、去勢。

注2：2022年1月の値は、N/A値。

(調査情報部 小林 大祐)

カナダ

総飼養頭数、干ばつなどを要因に減少

総飼養頭数、前年比2.8%減

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2022年7月1日時点の牛の総飼養頭

数は1229万頭（前年同月比2.8%減）と1988年以来、最小の飼養頭数となった（図1）。同頭数は、2005年のピーク（1688万頭）から減少局面にあり、15年以降は横ばいで

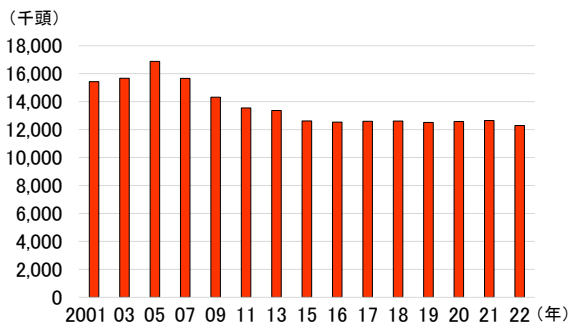
推移していた。内訳を見ると、繁殖雌牛が468万6000頭（同1.5%減）、未経産牛が187万8000頭（同5.1%減）といずれも減少しており、そのうち肉用後継牛が62万2000頭（同7.3%減）とかなりの程度減少した（表1）。米国農務省（USDA）は、21年に発生したカナダ西部での干ばつにより経産牛が淘汰された結果、子牛出生頭数が減少したことや飼料コストの高騰、米国向けの生体牛輸出が増加していることが要因と分析している。現地報道によると、特にカナダ西部での頭数の減少が大きいとされ、肉牛生産の主要州であるサスカチュワン州の飼養頭数は

前年から約11万頭、アルバータ州では10万頭以上それぞれ減少している。

生体牛輸出頭数、前年比大幅増

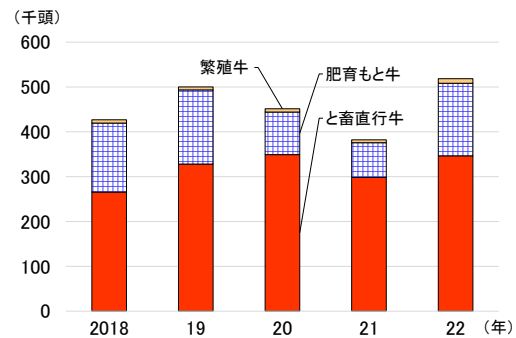
2022年1～8月の米国向けの生体牛輸出頭数は、51万8503頭（前年同期比35.7%増）と大幅に増加した（図2）。内訳を見ると、肥育もと牛の輸出頭数が16万1844頭（同109.4%増）と前年の倍以上に増加している。その理由についてUSDAは、19年以降、米国で肉用牛の飼養頭数が減少する中、旺盛な国内の需要と輸出需要が要因と分析している。

図1 牛飼養頭数の推移



資料：Statistics Canada
注：各年7月1日時点。

図2 米国への生体牛輸出頭数の推移



資料：USDA 「Livestock and Meat International Trade Data」
注：各年1～8月の累計。

表1 種類別牛飼養頭数の推移

(単位：千頭)

	2018年	19年	20年	21年	22年	前年比 (増減率)
総飼養頭数	12,610	12,510	12,575	12,645	12,290	▲2.8%
繁殖雌牛	4,766	4,742	4,756	4,756	4,686	▲1.5%
肉用牛	3,795	3,771	3,787	3,776	3,714	▲1.7%
乳用牛	971	971	969	980	972	▲0.8%
未経産牛	2,021	1,983	1,989	1,979	1,878	▲5.1%
肉用後継牛	699	682	684	672	622	▲7.3%
乳用後継牛	427	421	422	430	420	▲2.4%
その他	895	880	883	877	836	▲4.7%
去勢牛	1,580	1,559	1,585	1,636	1,646	0.6%
種雄牛	229	224	225	223	219	▲1.9%
子牛	4,015	4,002	4,019	4,051	3,861	▲4.7%

資料：Statistics Canada
注：各年7月1日時点。

22年1～8月の牛肉輸出量、前年同期比5.2%減

カナダ統計局によると、2022年8月の牛肉輸出量は、3万5876トン（前年同月比20.9%減）と大幅に減少し、22年1～8月の累計では28万3063トン（前年同期比5.2%減）とやや減少した（表2）。同期累計を輸出先別に見ると、インフレによる牛肉価格の高騰を背景に、米国向けが21万3002トン（同0.9%減）とわずかに減少した。日本向けは3万3539トン（同0.5%増）とわず

かに増加し、全体輸出量の8割近くを占める米国に次ぐ輸出先となっている。一方、昨年まで輸出量第3位であった中国向けは129トン（同99.0%減）と大幅に減少した。これは、21年12月にカナダの肥育牛農場で非定型の牛海綿状脳症（BSE）に感染した肉牛が検出され、中国がカナダ産牛肉の輸入を停止しているためである。アジア向けが低調の中、唯一韓国向けが1万1423トン（同69.7%増）と大幅に増加しており、輸出先としての市場価値が高まっている。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

（単位：トン）

	2021年 8月	22年 8月	前年同月比 (増減率)	シェア	22年	前年同期比
					(1～8月)	(増減率)
米国	33,845	28,053	▲17.1%	78.2%	213,002	▲0.9%
日本	5,430	3,409	▲37.2%	9.5%	33,539	0.5%
中国	1,732	—	▲100.0%	0.0%	129	▲99.0%
韓国	1,524	1,088	▲28.6%	3.0%	11,423	69.7%
メキシコ	1,333	1,629	22.2%	4.5%	10,771	▲3.1%
ベトナム	633	851	34.4%	2.4%	6,342	▲24.2%
香港	313	309	▲1.3%	0.9%	2,420	▲54.5%
台湾	211	85	▲59.7%	0.2%	827	▲5.5%
フィリピン	73	185	153.4%	0.5%	861	▲52.2%
その他	255	267	4.7%	0.7%	3,749	328.9%
合計	45,349	35,876	▲20.9%	100.0%	283,063	▲5.2%

資料：Statistics Canada
注：製品重量ベース。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

E U

牛肉供給量の減少と価格の高騰により輸出量は減少

牛肉生産量、前年同期比1.7%減

欧州委員会によると、2022年1～7月の牛肉生産量（EU27カ国）は、379万5330

トン（前年同期比1.7%減）と前年をわずかに下回った（表1）。EUの牛肉生産量は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大に伴い20年から減少傾向で推移している。

表1 主要生産国別牛肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2021年 (1～7月)	22年 (1～7月)	前年同期比 (増減率)
フランス	826	786	▲ 4.9%
ドイツ	607	547	▲ 9.9%
スペイン	419	433	3.4%
イタリア	405	428	5.7%
アイルランド	330	351	6.2%
ポーランド	327	319	▲ 2.2%
オランダ	244	238	▲ 2.3%
その他	705	694	▲ 1.6%
合計	3,862	3,795	▲ 1.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

欧州委員会によると、飼料価格の高騰などにより生産者が早期出荷を進めたため、と畜頭数は増加したものの枝肉重量が減少したことが要因としている。ただし、国別に見ると状況は異なっている。21年12月時の牛飼養頭数が減少したフランスは生産量がやや減少(同4.9%減)、同じくドイツの生産量もかなりの程度減少(同9.9%減)している一方で、同飼養頭数が増加したスペイン、イタリア、アイルランドはいずれも前年同期を上回った。

22年9月の牛枝肉平均卸売価格(注1)は、100キログラム当たり492.85ユーロ(7万3479円、1ユーロ=149.09円(注2)、同25.1%高)と21年3月以降、引き続き前年同月を上回って推移している。これについて米国農務省(USDA)は、枝肉価格の高騰はと畜頭数の増加を促すものの、飼料の高騰による枝肉重量の減少により全体の牛肉生産量

を押し下げる要因になると分析している。

(注1) 若雄牛(A)、去勢牛(C)および若齢牛(Z)のうち枝肉の格付けが上(R)、枝肉の脂肪の付着度合が平均的(5段階中3)なものの平均価格(A/C/Z-R3)。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

輸入量は前年同期比で増加するもパンデミック前には及ばず

2022年1～8月の冷蔵および冷凍牛肉輸出量は、冷蔵牛肉の輸出量が前年同期比4.0%増とやや増加したものの、冷凍牛肉の輸出量が同9.2%減とかなりの程度減少したため、全体としては同1.9%減の29万3727トンとわずかに減少した(表2)。冷蔵、冷凍ともに英国向けが好調である。しかし、EU域内の供給量の減少と価格の高騰により、ボスニア・ヘルツェゴビナやスイス、フィリピン向けなどの減少が大きく、欧州委員会は22年通年の輸出量は前年比1.0%減と予測している。

一方、同年1～8月の冷蔵および冷凍牛肉輸入量は主に英国からの増加を背景に同30.5%増と大幅に増加した(表3)。USDAによると、COVID-19からの経済の回復により特に南欧では観光部門の復活に後押しされる形で外食産業の牛肉需要が増加しているものの、牛肉価格の上昇によりEU全体では牛肉消費量は減少していると分析している。そのため、牛肉輸入量はコロナ禍以前の水準には戻っていない。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

品目	輸出先	2021年 (1～8月)	22年 (1～8月)	前年同期比
				(増減率)
冷蔵	英国	93,994	111,687	18.8%
	ボスニア・ヘルツェゴビナ	21,885	20,005	▲ 8.6%
	スイス	13,125	12,478	▲ 4.9%
	ノルウェー	13,305	8,282	▲ 37.8%
	イスラエル	7,073	7,008	▲ 0.9%
	その他	16,779	13,377	▲ 20.3%
	合計	166,161	172,837	4.0%
冷凍	英国	36,536	49,536	35.6%
	フィリピン	16,136	14,114	▲ 12.5%
	日本	8,264	8,064	▲ 2.4%
	カナダ	6,485	6,502	0.3%
	イスラエル	4,850	5,073	4.6%
	その他	60,926	37,601	▲ 38.3%
	合計	133,197	120,890	▲ 9.2%
冷蔵・冷凍計	299,358	293,727	▲ 1.9%	

資料：「Global Trade Atlas」

注：冷蔵のHSコードは0201、冷凍のHSコードは0202。

表3 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

品目	輸入先	2021年 (1～8月)	22年 (1～8月)	前年同期比
				(増減率)
冷蔵	英国	27,555	51,324	86.3%
	アルゼンチン	22,332	29,744	33.2%
	ウルグアイ	13,774	15,148	10.0%
	米国	6,920	9,387	35.7%
	ブラジル	9,020	9,304	3.1%
	オーストラリア	5,067	4,545	▲ 10.3%
	日本	619	1,655	167.4%
	その他	2,920	4,010	37.3%
合計	88,207	125,117	41.8%	
冷凍	ブラジル	24,690	27,917	13.1%
	英国	9,590	10,239	6.8%
	ウルグアイ	9,166	6,753	▲ 26.3%
	アルゼンチン	1,953	2,272	16.3%
	ニュージーランド	1,420	1,689	18.9%
	その他	2,156	5,101	136.6%
	合計	48,975	53,971	10.2%
冷蔵・冷凍計	137,182	179,088	30.5%	

資料：「Global Trade Atlas」

注：冷蔵のHSコードは0201、冷凍のHSコードは0202。

(調査情報部 上村 照子)

豪州

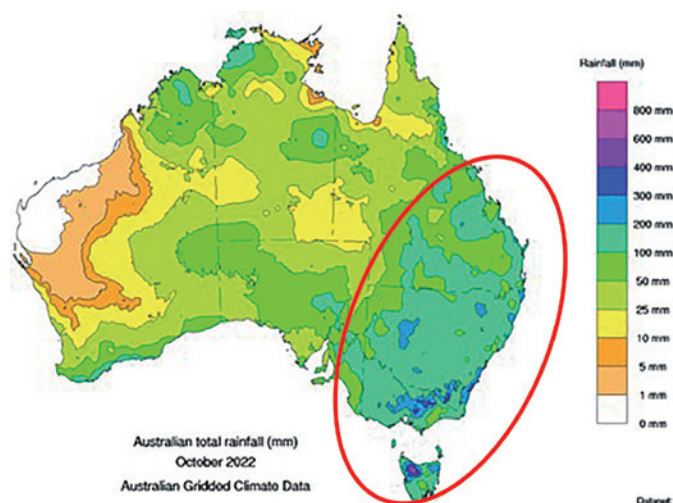
労働力不足や牛群再構築により牛肉輸出量は減少

豪州東部の各地で洪水が発生

豪州では、2022年10月の多雨（図1）を受けて東部で洪水被害が発生した。現地報道では、河川の氾濫などにより、家畜や飼料な

どの物流に影響が生じたほか、農家では家畜を高台に移動させるなどの措置が取られたとしている。豪州気象局（BOM）は、今後も東部では平年以上の降雨があると予測している。

図1 2022年10月の豪州における月間降水量



資料：BOMホームページから引用

注：図右側の丸囲み部分が、特に降雨が多かった地域。

肉牛取引価格は今後も横ばいで推移の見込み

肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、2022年10月に入り、1キログラム当たり1040豪セント（1009円：1豪ドル=97.05円^(注1)）前後の横ばいで推移している（図2）。

現地報道によると、洪水により家畜の出荷が制限されている一方、依然として牧草が潤沢にあり、今後も多雨が予想されることから、牛群再構築は持続され肉牛取引価格は当面横ばいで推移する可能性が高いとしている。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

中国での需要増を背景に同国向け輸出が増加

牛肉生産では、依然として食肉処理施設での労働力不足や多雨による牛群再構築の持続などにより低調に推移しており、2022年9月の輸出量も7万295トン（前年同月比12.0%減）とかなり大きく減少した（表）。現地報道によると、海上運賃は一時の水準から下落基調にあるものの、輸出先におけるインフレなどにより、牛肉需要が鈍化しており、牛肉輸出にも影響が出ているとしている。

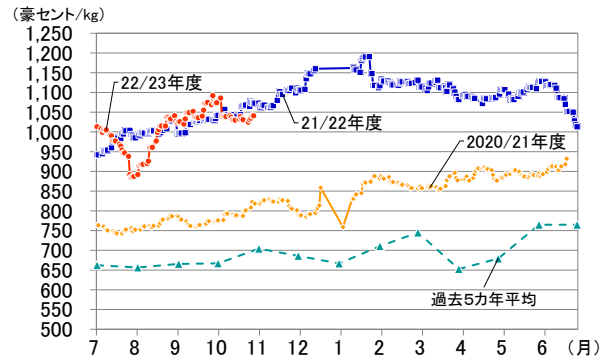
輸出先別に見ると、最大の輸出先である日本向けは1万5791トン（同26.3%減）、干ばつによる牛群整理で牛肉生産量が増加して

いる米国向けも8589トン（同43.6%減）とともに大幅に減少している。一方、中国向けは1万4917トン（同20.0%増）と大幅に増加しているが、アナリストらによると、穀物肥育牛肉を中心に中国の牛肉需要が高まっていると分析している。

また、昨年12月に署名された英国とのFTAでは、発効初年度に年間3万5000トン、10年目に同11万トンの無税枠^(注2)が設定されており、英国への豪州産牛肉の輸出量増加が期待されている。これに関し豪州のアルバニー首相は、今年末に発効予定とされていた本FTAについて、英国の首相交代などの政治的混乱を受け、英国内のFTA発効に向けた批准および協定発効が遅れる可能性があるとしている。

(注2) 海外情報「英国政府、英豪FTAの合意内容の概要を発表」
(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002976.html)
を参照されたい。

図2 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2021年 9月	22年 9月	前年同月比 (増減率)	22年	前年同期比
				(1～9月)	(増減率)
日本	21,435	15,791	▲ 26.3%	164,858	▲ 7.4%
中国	12,435	14,917	20.0%	117,331	7.9%
韓国	13,639	13,635	▲ 0.0%	118,000	1.1%
米国	15,237	8,589	▲ 43.6%	94,156	▲ 12.7%
東南アジア	8,594	7,767	▲ 9.6%	67,982	▲ 9.4%
中東	2,932	2,689	▲ 8.3%	21,395	▲ 3.9%
E U	577	435	▲ 24.6%	5,883	▲ 2.2%
その他	4,994	6,473	29.6%	46,194	0.8%
輸出量合計	79,843	70,295	▲ 12.0%	635,799	▲ 3.8%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国（アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ）の合計。

(調査情報部 国際調査グループ)

豚 肉

米 国

22年8月の豚肉輸出量、日本向けが大幅に減少

飼養頭数、前年同月比1.4%減

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2022年9月1日時点の豚飼養頭数は、7380万頭（前年同月比1.4%減）と3年連続で減少した（表1）。内訳を見ると、繁殖豚は615万2000頭（同0.6%減）、肥育豚は6764万8000頭（同1.5%減）といずれも減少している。また、6～8月期の分娩母豚頭数および産子数も減少したものの、1頭当たりの産子数は11.13頭と前年並みとなった。飼養頭数の減少が続いている要因についてUSDAは、世界経済の先行きが不透明な中で、カリフォルニア州法^(注1)の施行やその他の州でも同様の飼養規制強化の動きが見られることから、生産者は養豚産業への影響を懸念し増頭意欲が低下して

いると分析している。

（注1）海外情報「母豚の飼育環境規制強化に関するカリフォルニア州法の施行が停止（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003178.html）を参照されたい。

豚肉供給量が増加し、卸売価格は下落

2022年3～5月に分娩された肥育豚が出荷適齢期を迎える中でと畜頭数が増え、さらに1頭当たりの枝肉重量も増加したことで、8月の豚肉生産量は104万5000トン（前年同月比4.1%増）とやや増加した。国内の豚肉需要は引き続き堅調であるが、豚肉供給量が増加したことから、22年8月の豚肉卸売価格は100ポンド当たり116.99米ドル（1キログラム当たり384.97円：1米ドル＝149.26円^(注2)、同2.0%安）と下落に転じた（図）。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

表1 豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

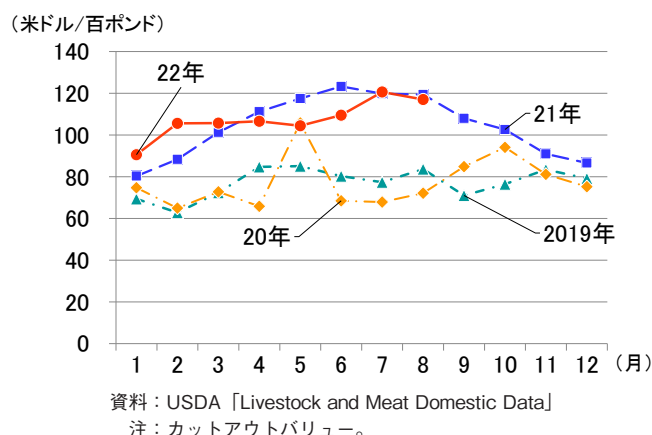
	2019年	20年	21年	22年	前年比 （増減率）
総飼養頭数（9月1日時点）	78,583	78,434	74,867	73,800	▲ 1.4%
繁殖豚	6,431	6,333	6,190	6,152	▲ 0.6%
肥育豚	72,153	72,101	68,677	67,648	▲ 1.5%
50ポンド（23キログラム）未満	23,376	23,144	21,690	21,343	▲ 1.6%
50～119ポンド （23～53キログラム）	21,224	21,020	20,211	19,887	▲ 1.6%
120～179ポンド （54～81キログラム）	14,654	14,867	14,246	14,073	▲ 1.2%
180ポンド（82キログラム）以上	12,899	13,069	12,529	12,345	▲ 1.5%
分娩母豚頭数（6～8月）	3,274	3,260	3,050	3,018	▲ 1.0%
産子数（6～8月）	36,370	36,056	33,944	33,581	▲ 1.1%
1腹当たり産子数（6～8月）（頭）	11.11	11.06	11.13	11.13	0.0%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

図 豚肉卸売価格の推移



22年8月の豚肉輸出量、前年同月比2.6%減

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2022年8月の豚肉輸出量は23万2400トン（前年同月比2.6%減）とわずかに減少し、22年1～8月の累計の豚肉輸出量は188万400トン（前年同期比14.8%減）とかなり大きく減少した（表2）。8月の輸出量を主要輸出先別に見ると、他通貨と比較しメキシコペソ相場が安定して推移する中で、メキシコ向けが8万8600トン（前年同月比3.9%増）と引き続き好調、韓国向けは

1万8700トン（同39.2%増）と大幅に増加した。また、22年に入り中国国内の豚肉価格の高騰を背景に、中国・香港向けは2万9700トン（同8.8%増）とかなりの程度増加し、今年に入り、初めて前年同月を上回った。一方、記録的な円安が進み、日本では、EUなど他国からの豚肉輸入量が増えたことで、日本向けが3万6800トン（同20.1%減）と大幅に減少した。USDAによると、長引く米ドル高の影響などにより、23年以降も主要輸出先における米国産豚肉の需要低下が見込まれ、23年の豚肉輸出量は前年を下回ると予測されている。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

（単位：千トン）

	2021年 8月	22年 8月	前年同月比 (増減率)	シェア	22年 (1～8月)	
					前年同期比 (増減率)	
メキシコ	85.2	88.6	3.9%	38.1%	689.6	21.4%
日本	46.0	36.8	▲20.1%	15.8%	337.7	▲12.5%
中国・香港	27.3	29.7	8.8%	12.8%	176.6	▲60.7%
カナダ	19.7	18.3	▲6.9%	7.9%	145.8	▲13.8%
韓国	13.4	18.7	39.2%	8.0%	167.8	0.9%
コロンビア	11.2	10.7	▲4.8%	4.6%	89.6	10.4%
ドミニカ 共和国	6.6	6.5	▲2.1%	2.8%	70.4	38.5%
その他	29.2	23.3	▲20.0%	10.0%	202.9	▲39.8%
合計	238.6	232.4	▲2.6%	100.0%	1,880.4	▲14.8%

資料：USDA 「Livestock and Meat International Trade Data」
注：枝肉重量ベース。

（調査情報部 伊藤 瑞基）

需要期を迎え、豚肉価格は上昇傾向継続の見込み

繁殖雌豚頭数は前年から減少も5月以降は増頭傾向

中国農業農村部によると、2022年9月末時点の繁殖雌豚頭数は前年同月比2.2%増、前月比2%増の4362万頭となった（図1）。アフリカ豚熱からの回復により同頭数がピークとなった前年よりは減少しているものの、22年5月以降、増加傾向で推移している。なお、同部が最適な繁殖雌豚頭数としている約4100万頭と比較すると、現在の規模は6.4%上回っている状況にある。

また、同時点での総飼養頭数は4億4394万頭（前年同月比1.4%増）と前年をわずかに上回った。

豚と畜頭数は前年を下回る

中国国内の豚と畜頭数は5月以降減少傾向で推移し、2022年9月の同頭数は2109万頭（前年同月比15.9%減）と前年をかなり大きく下回った（図2）。また、22年第3四半期（7～9月）の豚肉生産量は1211万ト

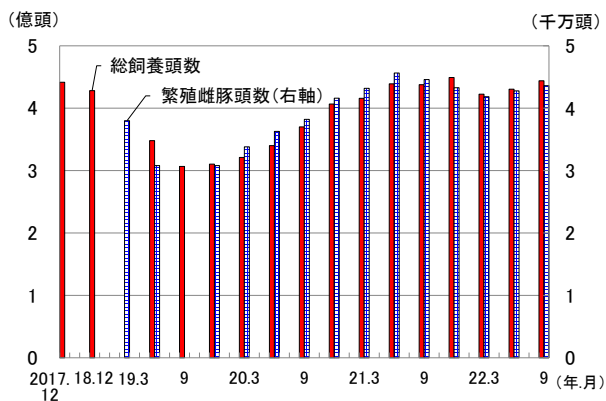
ン（前年同期比0.7%増）と前年をわずかに上回った。一部の生産者で価格の上昇期待により出荷を先延ばしにする傾向があったことから、大型の肥育豚が出荷されており、出荷生体重量が増加しているためとされる。

豚肉価格は今後も上昇傾向となる見込み

豚肉価格および子豚価格はともに2022年第2四半期（4～6月）から上昇に転じている（図3）。子豚価格は7月以降、おおむね横ばいで推移し、9月の価格は前月比1.1%安の1キログラム当たり44.1元（911円：1元=20.65円^{（注）}）となった。豚肉価格は上昇傾向が続いており、9月には同5.8%高の同35.8元（739円）と前月をやや上回った。

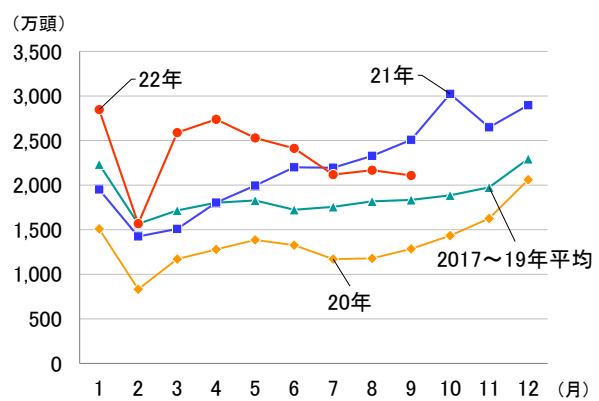
国家発展改革委員会などは9月以降、合計7回にわたり豚肉国家備蓄の市場放出を実施しており、地方政府によるものも合わせると合計放出量は20万トン以上とされている。しかしながら、現地関係者によると、中国では9月始業が一般的である学校給食需要や秋

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局
注：四半期ごとの公表値。

図2 豚と畜頭数の推移

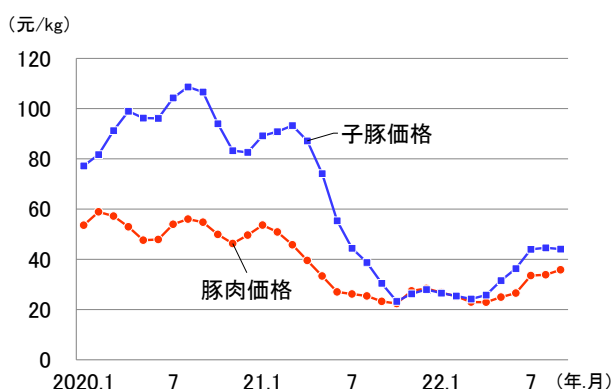


資料：中国農業農村部
注：年間2万頭以上処理する畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

季の大型連休（中秋節および国慶節）による祝日需要に加え、気温の低下に伴い春節に向けたハム、ソーセージなどの加工肉製造の季節を迎え、需要が増加する時期であることから、依然として豚肉価格は上昇傾向で推移すると予測されている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

図3 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

22年1～9月の豚肉輸入量は引き続き大幅減も8月以降の輸入量は増加傾向

2022年1～9月の豚肉輸入量は、121万523トン（前年同期比59.9%減）と大幅に減少した（表）。上半期を中心に、アフリカ豚熱の影響から回復途上にあった昨年ほどの輸入肉需要はないものの、8月以降は増加傾向にあり、9月単月では前月比9.7%増の15万1775トンと今年初の月間輸入量としては最大となった。昨今の豚肉価格の上昇に伴い、輸入業者の仕入れ意欲が高まっているとされている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

	2018年	19年	20年	21年	22年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	22.0	38.2	93.4	109.8	34.1	▲ 63.9%
ブラジル	15.0	22.2	48.1	54.6	27.7	▲ 31.1%
デンマーク	7.2	16.4	36.0	35.2	11.8	▲ 59.3%
米国	8.6	24.5	69.6	39.8	9.0	▲ 74.8%
オランダ	8.5	16.0	26.5	27.7	8.1	▲ 67.5%
カナダ	16.0	17.2	41.1	23.6	7.3	▲ 64.9%
その他	42.0	64.9	115.8	66.8	23.0	▲ 59.6%
合計	119.3	199.4	430.4	357.4	121.1	▲ 59.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは0203。

（調査情報部 海老沼 一出）

牛乳・乳製品

E U

生乳取引価格は20カ月連続で前月を上回るも乳製品価格は下降基調

8月の生乳出荷量、前年同月比0.8%減

欧州委員会によると、2022年8月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1207万660トン（前年同月比0.8%減）と2カ月ぶりに前年同月をわずかに下回った（表）。

同月の生乳出荷量を国別に見ると、主要国ではオランダ（同2.2%増）、ポーランド（同1.9%増）、アイルランド（同0.9%増）が増加した一方で、フランス（同2.5%減）、イタリア（同6.3%減）が減少し、生乳出荷量が最も多いドイツ（同0.1%減）は前年同月並みとなった。

欧州委員会が10月5日に公表した農畜産

物の短期的需給見通し^(注1)では、22年の生乳出荷量についてポーランドは前年比増、オランダは前年並みと見込んでいるものの、フランスおよびドイツの減産分を補うには至らず、全体では前年比0.5%減と見込んでいる。さらに23年の生乳出荷量については、22年の熱波による飼料不足や生産費の高騰から、同0.2%減と見込んでいる。

(注1) 海外情報「欧州委員会、生乳・乳製品の短期的需給見通しを公表(EU)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003388.html)を参照されたい。

生乳取引価格は依然として最高値を更新

2022年9月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり53.05

表 主要生産国別生乳出荷量の推移

(単位：千トン)

	2021年 8月	22年 8月	前年同月比 (増減率)	22年 (1～8月)	
				前年同期比 (増減率)	前年同期比 (増減率)
ドイツ	2,684	2,681	▲0.1%	21,582	▲1.2%
フランス	1,924	1,876	▲2.5%	16,355	▲1.4%
オランダ	1,123	1,148	2.2%	9,234	▲0.4%
ポーランド	1,059	1,079	1.9%	8,685	2.0%
イタリア	1,055	989	▲6.3%	8,653	▲2.5%
アイルランド	945	953	0.9%	6,782	▲0.3%
スペイン	624	602	▲3.6%	4,976	▲1.7%
デンマーク	488	483	▲1.1%	3,812	0.0%
ベルギー	363	375	3.3%	3,037	1.6%
その他	1,897	1,885	▲0.7%	15,288	▲0.6%
合計	12,163	12,071	▲0.8%	98,403	▲0.7%

資料：欧州委員会「Eurostat」

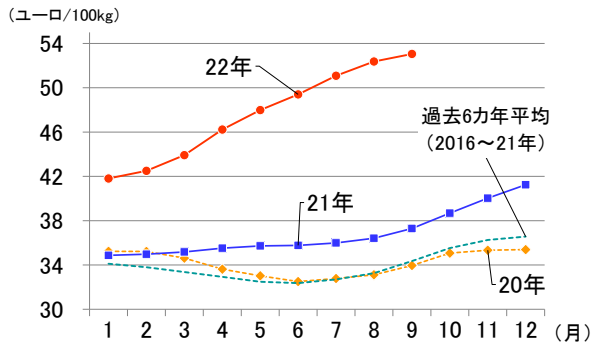
注1：速報値。

注2：データが未公表のルクセンブルグは除く。

ユーロ（7909円：1ユーロ=149.09円^(注2)、前年同月比42.3%高）と依然として最高値を更新しており、20カ月連続で前月を上回っている（図1）。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

図1 生乳取引価格の推移

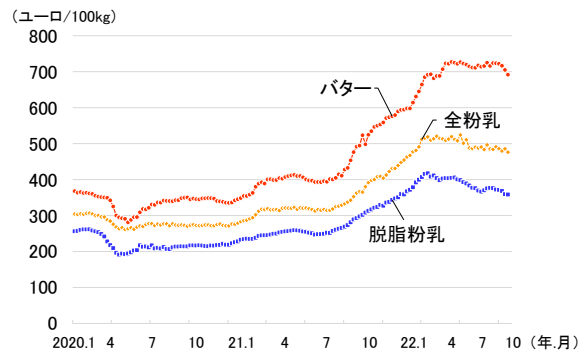


資料：欧州委員会「Milk market observatory」
注1：直近月は推定値。
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

バターなどの乳製品価格は高水準で推移するも下降基調

欧州委員会が公表した直近の10月23日の週の乳製品価格を見ると、バターが100キログラム当たり692ユーロ（10万3170円）、脱脂粉乳が同358ユーロ（5万3374円）、全粉乳が同476ユーロ（7万967円）であり、高水準で推移するものの、緩やかな下落傾向

図2 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

にある（図2）。

同見通しによると、2022年の全粉乳および脱脂粉乳の価格は、6月末以降、緩やかに下落しており、ユーロ・ドル為替相場によりEUにとって相対的な優位性はあるものの、主要輸出競合国を上回る価格水準が輸出の妨げとなり、それぞれ前年比8.3%安および同2.0%安と見込んでいる。また、燃料費などの製造費の高騰も、22年の生産量の減少につながる可能性があるとしている。さらに、中国の全粉乳輸入需要の減少から、同国向け輸出割合が高いニュージーランドがバターや脱脂粉乳向けの生乳を増加させていることで、EUの脱脂粉乳輸出の抑制につながっているとしている。

（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

生乳生産量、引き続き前年割れで推移

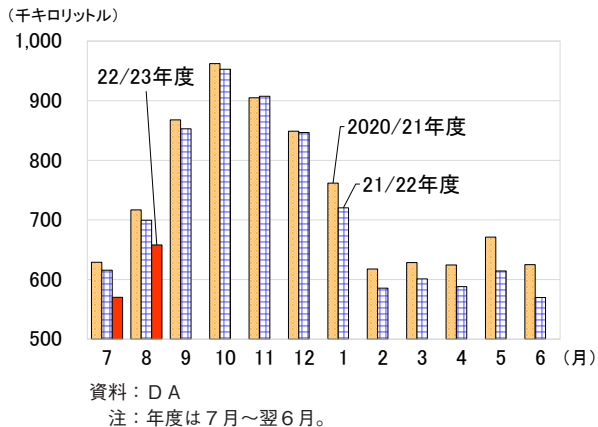
生乳生産量、引き続き減少

デーリー・オーストラリア（DA）によると、2022年8月の生乳生産量は、主産地での多雨や全州での労働力不足、生産コストの増加などから65万8094キロリットル（67万7837トン相当、前年同月比5.9%減）とや

や減少した（図1）。対前年同月比がマイナスとなるのは9カ月連続^(注1)となる。

この結果、22/23年度（7～8月）の累計生乳生産量は、前年同期比6.6%減の122万8294キロリットル（126万5143トン相当）とかなりの程度減少した。

図1 生乳生産量の推移



(注1)『畜産の情報』2022年10月号「21/22年度の生乳生産量、前年度よりやや減少」では「13カ月連続で減少」と報じたが、DAが22年7月の生乳生産量公表に併せて、21/22年度の毎月の生乳生産量を修正したことに伴い修正。

22/23年度の生乳生産量についてDAは、22年9月時点では、「横ばい」と昨年度（約855万キロリットル<881万トン相当>）と同程度と予測している。しかし本年10月、主要酪農地帯である豪州東部のビクトリア州やニューサウスウェールズ（NSW）州では洪水が散発しており、現地報道によると、牧草への被害のみならず、集乳や乳業工場の稼働にも影響が出ているという。10月は豪州の生乳生産がピークを迎える時期だけに、今後の生乳生産量への影響が懸念される。

10月26日現在の報道によると、豪州は

10月としては記録的な降水量になると予測されており、NSW州では、すでに推定1億9200万豪ドル（186億円：1豪ドル=97.05円^(注2)）に上る農作物被害が発生しているという。オランダの農協系金融機関ラボバンクは、洪水被害により、同国内の食品価格が全国的に高騰する恐れがあると警告している。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

主要乳製品輸出、一部品目に復調の兆しか

DAが発表した2022年8月の主要乳製品4品目の輸出量は、品目別に大きく異なる動きを見せた（表、図2）。

脱脂粉乳は、タイなどアジア向けの減少を受けて大幅に減少したのに対し、全粉乳はアラブ首長国連邦やインドネシア向けなどの好調を受け大幅に増加した。バターおよびバターオイルは、中国をはじめとするアジア向けの減少が響き、かなり大きく減少した。チーズは、輸出先シェア第1位の日本向けの増加などを受けてかなり大きく増加した。

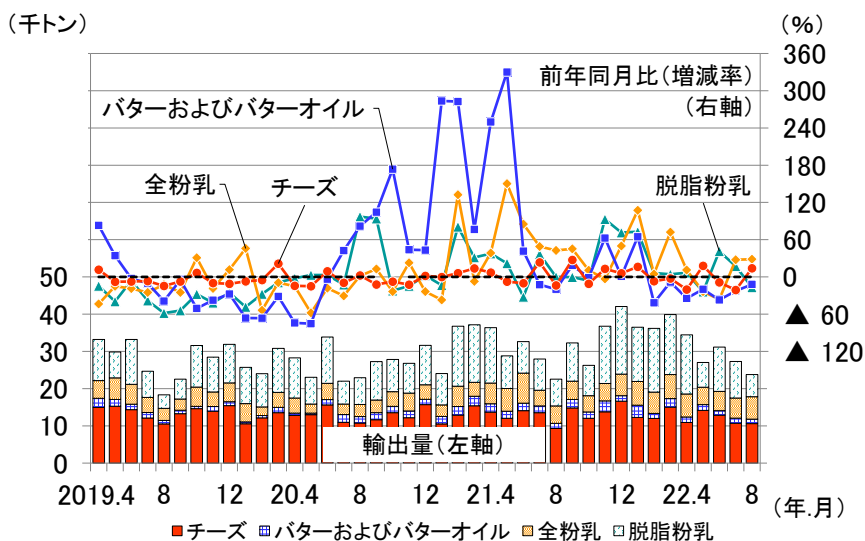
表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2021年 8月	22年 8月	前年同月比 (増減率)	22/23年度 (7～8月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	7,171	5,961	▲ 16.9 %	15,789	1.5 %
全粉乳	4,668	6,006	28.7 %	11,379	28.2 %
バターおよびバターオイル	1,381	1,217	▲ 11.9 %	2,618	▲ 18.0 %
チーズ	9,308	10,601	13.9 %	21,291	▲ 6.9 %

資料：DA
注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出品および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

(調査情報部 阿南 小有里)

N Z

GDT価格、全粉乳を除く主要3品目で今年最安値を記録

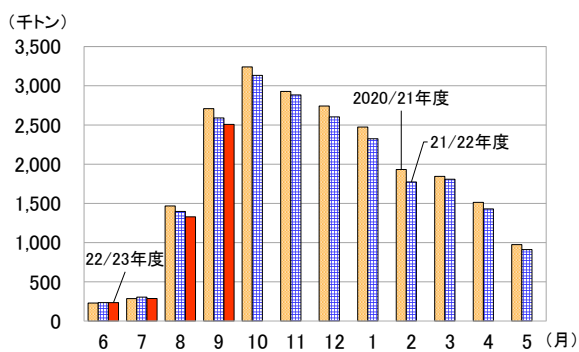
9月の生乳生産量、3カ月連続で前年同月を下回る

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2022年9月の生乳生産量は250万7500トン（前年同月比3.2%減）と3カ月連続で前年同月を下回り、9月単月としては17年以降最低の水準となった（図1）。この要因についてニュージーランド証券取引所

（NZX）は、労働力不足が依然として続く中で、北島を中心に雨天が続き、放牧環境が不良となったことを挙げている。

このような中で、同国最大手のフォンテラ社は10月14日、22/23年度（6月～翌5月）の予想集乳量を前回予想（9月9日公表）の149万5000トンからさらに1.0%引き下げ、148万トンに下方修正した。

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ
注：年度は6月～翌5月。

乳製品輸出品、主要4品目すべてで前年同月を上回る

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2022年9月の乳製品輸出品は、主要4品目すべてで前年同月を上回った（表）。品目別に見ると、脱脂粉乳および全粉乳は最大の輸出先である中国向けが減少したものの、インドネシアやマレーシアなどの東南アジア向けが増加したことで、それぞれ前年同

表 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2021年 9月	22年 9月	前年同月比 (増減率)	22/23年度 (7～9月)	
				前年同期比 (増減率)	
脱脂粉乳	19,513	19,904	2.0 %	59,411	13.3 %
全粉乳	63,417	80,268	26.6 %	274,457	25.4 %
バターおよびバターオイル	17,942	31,258	74.2 %	100,396	58.0 %
チーズ	17,402	27,601	58.6 %	79,258	18.3 %

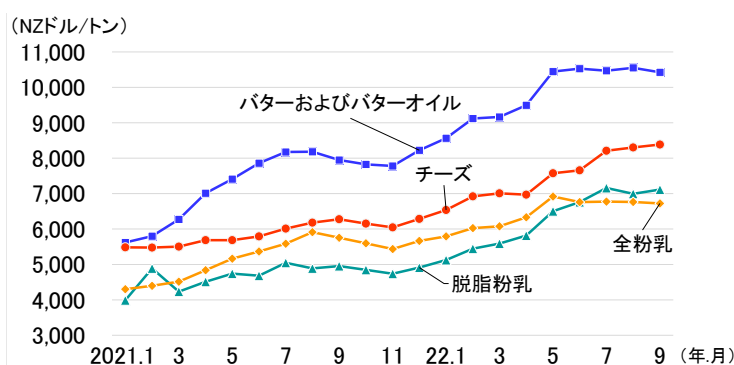
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 輸出単価の推移



資料：Stats NZのデータを基に農畜産業振興機構作成

注：輸出単価は輸出額÷輸出量で算出。

月を上回った。バターおよびバターオイルは、主要輸出先である日本向けが前年同月比で3倍程度に増加したことで、全体でも大幅に増加した。チーズは、主要輸出先である日本、韓国向けがそれぞれ大幅に増加したことで、全体でも大幅に増加した。

また、生乳生産量が世界的に落ち込む中で、乳製品の輸出単価は上昇基調にある(図2)。この結果、同月単月の主要4品目の輸出額合計は12億3852万NZドル(1090億円：1NZドル=88.04円^(注1)、前年同月比73.6%増)と前年同月から5億2507万NZドル(462億円)増加した。

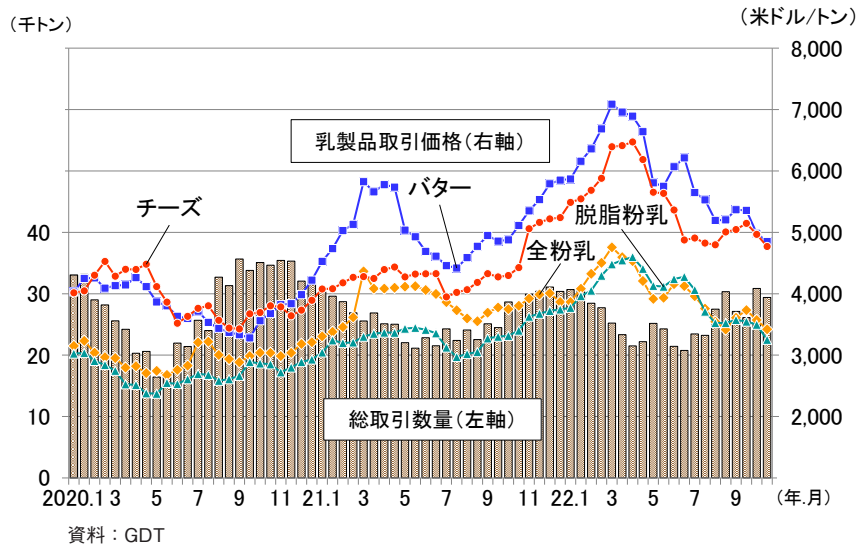
(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

GDT価格、主要4品目すべてで下落

2022年10月18日に開催されたGDT^(注2)の1トン当たりの平均取引価格は、主要4品目すべてにおいて前回開催(10月4日)から下落し、全粉乳を除く主要3品目は、今年最安値を記録した(図3)。この要因について現地報道は、乳製品価格の上昇に加え、取引の主要通貨である米ドルの高値基調が市場に緊張感を与え、消極的な動きを助長したと推測している。また、ウクライナ情勢の悪化や中国の景気減速に起因する世界的な景気後退に対する不安が表れた結果とする見解を示している。

(注2) グローバルデイリートレード。月2回開催される電子オークションで当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 工藤 理帆)

アルゼンチン

生乳生産量は前年同期をわずかに上回る水準で推移

22年1～9月の生乳生産量、前年同期比0.7%増

アルゼンチン経済省によると、2021年の生乳生産量は1155万3300キロリットル(前年比4.0%増)と前年をやや上回り、2年連続の増加となった(図1)。同年は湿度が低いことに加え、異常気温の日が少なく牛の生

育に適した気象条件に恵まれたことや、海外からの乳製品需要が堅調であったためである。近年の生乳生産量を見ると、16～19年は1000万キロリットル台で推移したが、20年以降は1100万キロリットル台で推移している。

22年1～9月の生乳生産量は836万7400キロリットル(前年同期比0.7%増)と前年同期をわずかに上回った。月ごとの推移を見ると、1月は厳しい高温と乾燥気候で十分な飼料の確保ができず、19年6月以来31カ月ぶりに前年同月を下回った。2月以降は気象条件が改善され生乳生産はやや持ち直したものの、6、7月には厳しい低温と乾燥気候で牧草の生育が十分でなかったことから再び前年同月を下回るなど、21年と比べ増加率が低下している。また、飼料穀物、肥料や燃料など上昇基調にあった生産コスト

図1 生乳生産量(年別)の推移

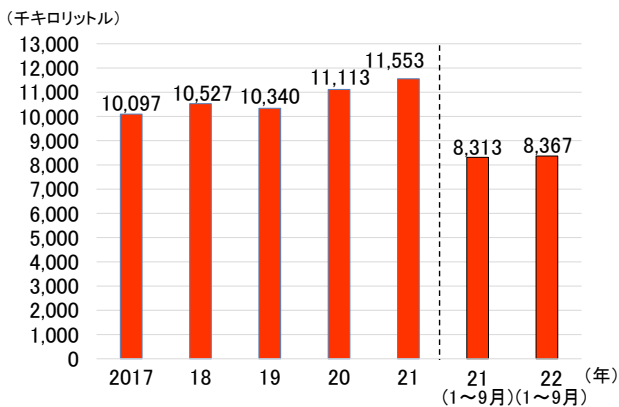


表1 主な乳製品の品目別輸出量の推移

(単位：千トン)

	2017年	18年	19年	20年	21年	前年比 (増減率)	21年	22年	前年同期比 (増減率)
							(1～9月)	(1～9月)	
全粉乳	71.9	118.9	85.3	126.4	128.4	1.6%	89.1	95.4	7.1%
チーズ	45.0	42.8	39.4	44.9	52.2	16.2%	38.7	41.4	6.9%
ホエイ	54.8	46.4	41.6	32.5	40.0	23.0%	29.7	27.3	▲7.9%
脱脂粉乳	20.1	15.7	14.0	14.2	11.1	▲21.9%	7.9	11.3	43.7%
バター	4.2	3.9	8.2	14.0	15.9	14.1%	10.0	8.5	▲15.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、全粉乳：HS0402.21、0402.29、チーズ：HS0406、ホエイ：HS0404、バター：HS0405、脱脂粉乳：HS0402.10。

注2：製品重量ベース。

表2 チーズおよびバターの主な輸出先別輸出量の推移

(単位：トン)

	チーズ			バター				
	輸出相手先	2021年 (1～9月)	22年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)	輸出相手先	2021年 (1～9月)	22年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
1	ブラジル	17,412	20,356	16.9%	ロシア	7,929	4,676	▲41.0%
2	チリ	11,603	13,339	15.0%	サウジアラビア	0	1,775	—
3	台湾	605	1,809	199.0%	ブラジル	2,092	1,110	▲46.9%
4	パラグアイ	2,006	1,663	▲17.1%	アルジェリア	0	682	—
5	ロシア	5,480	1,605	▲70.7%	台湾	0	233	—
	全体	38,696	41,383	6.9%	全体	10,021	8,477	▲15.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードはチーズ：HS0406、バター：HS0405。

注2：製品重量ベース。

が、ウクライナ情勢の影響でさらに拍車がかかったことなども生乳生産に影響したとみられる。なお、直近の報道によると、3期連続でのラニーニャ現象の発生の可能性が高まりつつあり、今後、乾燥気候による穀物生産などへの影響が懸念されている。

22年1～9月のチーズおよびバターの輸出量、ロシア向けが大幅に減少

2021年の主な乳製品輸出量は、脱脂粉乳を除き前年を上回った(表1)。特に全粉乳、チーズおよびバターは直近5年間で最大の輸出量となった。

22年1～9月の主な乳製品輸出量は、全

粉乳、チーズおよび脱脂粉乳が前年同期を上回る一方、ホエイおよびバターは下回った。品目別で見ると、全粉乳は19年以降増加傾向で推移している。輸出先別ではアルジェリア向け(全体の62.9%)が最大で、これに次ぐブラジル向け(同28.8%)を合わせると全体の9割以上を占める。チーズについては、モッツアレラチーズやセミハードチーズを中心に19年以降増加傾向で推移している。輸出先別ではブラジル向け(同49.2%)が最大で、これに次ぐチリ向け(同32.2%)を合わせると全体の8割以上を占める(表2)。21年はロシア向けが第3位であったが、ウクライナ情勢の影響により22年3月以降、

同国向けが大幅に減少（前年同期比70.7%減）する一方で、ブラジルおよびチリなどの輸出先でそれを補った。バターについては、21年まで増加傾向で推移してきたが、22年は減少に転じた。21年にはロシア向けが全体の85.2%を占めたが、22年はチーズと同様に大幅に減少（同41.0%減）する一方で、他の輸出先でその減少分を補いきれなかったためである。

生産者乳価は引き続き大幅な上昇

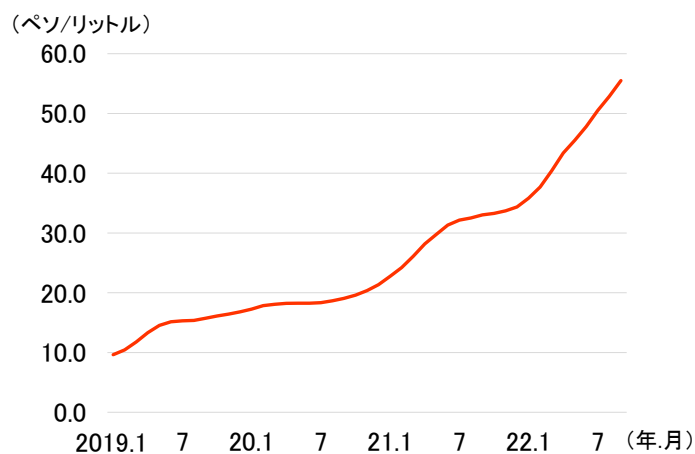
アルゼンチン経済省によると、2022年9月の生産者乳価（ペソ建て）は、1リットル当たり55.50ペソ（53円：1ペソ=0.95円^{（注）}、前年同月比68.0%高）と大幅に上昇した（図2）。生産者乳価は18年ごろから上昇傾向が

強まり、特に21年ごろから顕著となっている。アルゼンチンでは近年、高水準のインフレが続いており、21年は年率50.9%と近年で最も高かった19年のインフレ率（同53.8%）に次ぐ高さとなった。22年は、21年をさらに上回るインフレ率が見込まれている。

同国政府は、急激な物価上昇に対応し、国内に物資を安定供給するため、価格統制策を講じてきたが、十分なインフレ抑制に至っていない。また、政府は22年10月、食品などの生活必需品の価格を90日間据え置く制度「プレシオス・フストス」の導入を公表した。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「現地参考為替相場」の2022年10月末Selling相場。

図2 生産者乳価の推移



資料：アルゼンチン経済省

（調査情報部 井田 俊二）

飼料穀物

世界

22/23年度の世界のトウモロコシ、期末在庫は前年度比微減見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2022年10月12日、22/23年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は11億6874万トン（前年度比4.0%減）と前月から384万トン下方修正され、前年度をやや下回ると見込まれている。地域別に見ると、インドなどで生産量が増加したものの、フランス、ルーマニアなどでの減産が見込まれるEUや米国の生産量が前月から下方修正されたことで、これが吸収される形となった。特に、EUは5620万トン（同20.8%減）と、今年度と同等の干ばつ被害があった07/08年度以来の不作が見込まれている。

輸入量は、世界全体で1億7896万トン（同2.7%減）と前月から71万トン上方修正されたものの、前年度からわずかな減少が見込まれている。地域別に見ると、EUは前年度末から減産を背景とした輸入が増加する中で、特にブラジルやウクライナなどの主産国からの輸入が増えており、輸入量が2000万トン（前年同）と前月から100万トン上方修正された。一方で、21/22年度まで世界最大の

輸入先であった中国は1800万トン（同18.2%減）と大幅な減少が見込まれていることから、22/23年度EUが世界最大の輸入先になると予測される。

消費量は、世界全体で11億7455万トン（同2.4%減）と前月から563万トン下方修正され、前年度からわずかな減少が見込まれている。地域別に見ると、最大の消費国である中国のほか、米国やブラジルなどの主要国は前月から据え置かれたものの、ウクライナやEUなどをはじめとした国々で下方修正されたことが影響した。

輸出量は、世界全体で1億8304万トン（同9.8%減）と前月から54万トン下方修正され、前年度からかなりの程度減少が見込まれている。地域別に見ると、ウクライナは近時の輸送環境などの改善を受け、前月から250万トン上方修正されたものの、前年度比で42.6%減の1550万トンと大幅な減少が見込まれている。また、EUも主要輸出国であるルーマニアの減産の影響を受け270万トン（同55.0%減）と大幅な減少が予測されている。

この結果、期末在庫は3億119万トン（同1.9%減）と前月から334万トン下方修正され、前年度からわずかな減少が見込まれている。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2022年10月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区 分	2020/21年度	21/22年度	22/23年度			
		(推計値)	(9月予測)	(10月予測)	前年度比 (増減率)	前年度比 (増減量)
米国						
期首在庫	48.76	31.36	38.73	34.98	11.5%	3.6
生産量	358.45	382.89	354.19	352.95	▲ 7.8%	▲ 29.9
輸入量	0.62	0.62	0.64	1.27	2.0倍	0.7
消費量	306.69	317.12	304.81	304.81	▲ 3.9%	▲ 12.3
輸出量	69.78	62.78	57.79	54.61	▲ 13.0%	▲ 8.2
期末在庫	31.36	34.98	30.95	29.77	▲ 14.9%	▲ 5.2
アルゼンチン						
期首在庫	3.62	1.18	1.49	1.49	26.3%	0.3
生産量	52.00	51.50	55.00	55.00	6.8%	3.5
輸入量	0.01	0.01	0.01	0.01	0.0%	0.0
消費量	13.50	13.70	14.00	14.00	2.2%	0.3
輸出量	40.94	37.50	41.00	41.00	9.3%	3.5
期末在庫	1.18	1.49	1.49	1.49	0.0%	0.0
ブラジル						
期首在庫	5.33	4.15	4.65	4.95	19.3%	0.8
生産量	87.00	116.00	126.00	126.00	8.6%	10.0
輸入量	2.85	2.30	1.30	1.30	▲ 43.5%	▲ 1.0
消費量	70.00	73.00	77.00	77.00	5.5%	4.0
輸出量	21.02	44.50	47.00	47.00	5.6%	2.5
期末在庫	4.15	4.95	7.95	8.25	66.7%	3.3
ウクライナ						
期首在庫	1.48	0.83	5.57	4.57	5.5倍	3.7
生産量	30.30	42.13	31.50	31.50	▲ 25.2%	▲ 10.6
輸入量	0.02	0.02	0.00	0.00	-	0.0
消費量	7.10	11.40	12.70	10.70	▲ 6.1%	▲ 0.7
輸出量	23.86	27.00	13.00	15.50	▲ 42.6%	▲ 11.5
期末在庫	0.83	4.57	11.37	9.87	2.2倍	5.3
EU						
期首在庫	7.38	7.88	9.66	9.96	26.4%	2.1
生産量	67.44	70.98	58.80	56.20	▲ 20.8%	▲ 14.8
輸入量	14.49	20.00	19.00	20.00	0.0%	0.0
消費量	77.70	82.90	77.40	76.10	▲ 8.2%	▲ 6.8
輸出量	3.74	6.00	2.70	2.70	▲ 55.0%	▲ 3.3
期末在庫	7.88	9.96	7.36	7.36	▲ 26.1%	▲ 2.6
中国						
期首在庫	200.53	205.70	210.24	209.24	1.7%	3.5
生産量	260.67	272.55	274.00	274.00	0.5%	1.4
輸入量	29.51	22.00	18.00	18.00	▲ 18.2%	▲ 4.0
消費量	285.00	291.00	295.00	295.00	1.4%	4.0
輸出量	0.00	0.02	0.02	0.02	0.0%	0.0
期末在庫	205.70	209.24	207.22	206.22	▲ 1.4%	▲ 3.0
世界計						
期首在庫	307.45	292.78	312.14	307.01	4.9%	14.2
生産量	1,129.33	1,217.30	1,172.58	1,168.74	▲ 4.0%	▲ 48.6
輸入量	184.95	183.93	178.25	178.96	▲ 2.7%	▲ 5.0
消費量	1,144.00	1,203.08	1,180.18	1,174.55	▲ 2.4%	▲ 28.5
輸出量	182.60	202.93	183.58	183.04	▲ 9.8%	▲ 19.9
期末在庫	292.78	307.01	304.53	301.19	▲ 1.9%	▲ 5.8

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

（調査情報部 針ヶ谷 敦子）

米国の下方修正も、 南米での増産見込から期末在庫は上方修正

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2022年10月12日、22/23年度の世界の大豆需給予測値を更新

した（表）。

これによると、世界の生産量は3億9099万トン（前年度比9.9%増）と前月から122万トン上方修正された。うち、最大の生産国

表 主要国の大豆需給見通し（2022年10月12日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

区 分	2020/21年度	21/22年度		22/23年度	
		(推計値)	(9月予測)	(10月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	14.28	6.99	6.53	7.45	6.6%
生産量	114.75	121.53	119.16	117.38	▲ 3.4%
輸入量	0.54	0.43	0.41	0.41	▲ 4.7%
消費量	58.26	59.98	60.56	60.83	1.4%
輸出量	61.67	58.72	56.74	55.66	▲ 5.2%
期末在庫	6.99	7.45	5.44	5.44	▲ 27.0%
ブラジル					
期首在庫	20.42	29.40	22.46	23.16	▲ 21.2%
生産量	139.50	127.00	149.00	152.00	19.7%
輸入量	1.02	0.55	0.75	0.75	36.4%
消費量	46.68	51.00	50.50	51.50	1.0%
輸出量	81.65	79.55	89.00	89.50	12.5%
期末在庫	29.40	23.16	29.36	31.31	35.2%
アルゼンチン					
期首在庫	26.65	25.06	22.55	23.15	▲ 7.6%
生産量	46.20	44.00	51.00	51.00	15.9%
輸入量	4.82	3.85	4.80	4.80	24.7%
消費量	40.16	39.75	41.00	40.50	1.9%
輸出量	5.20	2.80	4.70	7.00	150.0%
期末在庫	25.06	23.15	25.40	24.20	4.5%
中国					
期首在庫	24.61	31.16	30.74	30.74	▲ 1.3%
生産量	19.60	16.40	18.40	18.40	12.2%
輸入量	99.76	90.00	97.00	98.00	8.9%
消費量	93.00	87.00	95.00	96.00	10.3%
輸出量	0.07	0.10	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	31.16	30.74	30.46	30.46	▲ 0.9%
世界計					
期首在庫	94.73	100.05	89.70	92.38	▲ 7.7%
生産量	368.44	355.69	389.77	390.99	9.9%
輸入量	165.49	154.41	165.02	166.23	7.7%
消費量	315.43	314.69	327.07	329.44	4.7%
輸出量	164.86	154.18	167.88	168.84	9.5%
期末在庫	100.05	92.38	98.92	100.52	8.8%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

であるブラジルは、現地政府機関による作付面積の増加見込を反映し前月から300万トン上方修正された。これに続く米国は、単収の減少を反映し178万トン下方修正された。米国の単収は1エーカー当たり49.8ブッシェル（1ヘクタール当たり3126キログラム^(注)）と前月から0.7ブッシェル下方修正されている。このほか、アルゼンチン、中国はいずれも前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億6623万トン（同7.7%増）と前月から121万トン上方修正された。最大の輸入国である中国は、前月から100万トン上方修正された。USDAは同日、新たに中国向け52万6000トンの大豆輸出が成約したと報じている。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億2944万トン（同4.7%増）と前月から237万トン上方修正された。うち、最大の消費国である中国は前月から100万トン上方修正された。

輸出量は、世界全体で1億6884万トン（同9.5%増）と前月から96万トン上方修正された。うち、最大の輸出国であるブラジルは前月から50万トン上方修正されたが、これに続く米国が生産量の減少見込みから108万トン下方修正された。一方で、アルゼンチンは前月から230万トン、パラグアイも同189万トンといずれも上方修正されたことで、これら南米諸国の増加が米国の減少分を十分に補う形となった。

この結果、期末在庫は1億52万トン（同8.8%増）と前月から160万トン上方修正された。なお、米国については、21/22年度の期末在庫が92万トン上方修正されたことで、輸出量の下方修正も加味し前月から据え置かれた。

(注) 1ブッシェルを25.401キログラム、1エーカーを0.4047ヘクタールとして換算。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

22/23年度の米国トウモロコシ、在庫率は10%を割り込む見込み

USDA/WAOBは2022年10月12日、22/23年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを更新した（表）。

生産量は、単収減少予測を受けて138億9500万ブッシェル（3億5295万トン^(注1)、前年度比7.8%減）と前月から4900万ブッシェル（124万トン）下方修正され、前年度からかなりの程度減少すると見込まれている。

消費量は、120億ブッシェル（3億481万トン、同3.9%減）と前月から据え置かれ、前年度からやや減少すると見込まれている。

内訳を見ると、飼料など向けが5000万ブッシェル（127万トン）上方修正されたものの、エタノール向けが同量下方修正となったことで、これが吸収される形となった。

輸出量は、21億5000万ブッシェル（5461万トン、同13.0%減）と前月から1億2500万ブッシェル（318万トン）下方修正され、前年度からの減少幅が拡大すると見込まれている。

この結果、期末在庫は、減産を背景に前月から4700万ブッシェル（119万トン）下方修正され、11億7200万ブッシェル（2976

万トン、同14.9%減)と、引き続き前年度をかなり大きく下回ると見込まれている。

また期末在庫率(総消費量に対する期末在庫量)は8.3%(同0.9ポイント減)と、8%台前半にまで低下すると予測されている。

生産者平均販売価格は、1ブッシェル当たり6.80米ドル(1015円。1キログラム当たり40.0円:1米ドル=149.26円^(注2))と

前月から上方修正され、前年度からかなり大きく上昇し、12/13年度に記録した同6.89米ドル以来の高値水準となることが予測されている。

(注1) 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し(2022年10月12日米国農務省公表)

区分	一単位一	2020/21年度	21/22年度(推計値)	22/23年度			前年度比(増減率)
				(9月予測)	(10月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	90.7	93.3	88.6	88.6	35.9(百万ヘクタール)	▲5.0%
収穫面積	(百万エーカー)	82.3	85.3	80.8	80.8	32.7(百万ヘクタール)	▲5.3%
単収	(ブッシェル/エーカー)	171.4	176.7	172.5	171.9	10.8(トン/ヘクタール)	▲2.7%
生産量	(百万ブッシェル)	14,111	15,074	13,944	13,895	352.95(百万トン)	▲7.8%
輸入量	(百万ブッシェル)	24	24	25	50	1.27(百万トン)	108.3%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,235	1,525	1,377	34.97(百万トン)	11.5%
総供給量	(百万ブッシェル)	16,055	16,333	15,494	15,322	389.19(百万トン)	▲6.2%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,074	12,484	12,000	12,000	304.81(百万トン)	▲3.9%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,602	5,715	5,225	5,275	133.99(百万トン)	▲7.7%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,472	6,769	6,775	6,725	170.82(百万トン)	▲0.7%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,033	5,328	5,325	5,275	133.99(百万トン)	▲1.0%
輸出货量	(百万ブッシェル)	2,747	2,471	2,275	2,150	54.61(百万トン)	▲13.0%
総消費量	(百万ブッシェル)	14,821	14,956	14,275	14,150	359.42(百万トン)	▲5.4%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,235	1,377	1,219	1,172	29.76(百万トン)	▲14.9%
期末在庫率	(%)	8.3	9.2	8.5	8.3		0.9ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	4.53	6.00	6.75	6.80	40.0(円/kg)	13.3%

資料: USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1: 年度は各年9月~翌8月。

注2: 1エーカーは約0.4047ヘクタール。

(調査情報部 針ヶ谷 敦子)

トウモロコシおよび大豆の価格動向

国産トウモロコシ価格、飼料用需要から下落は限定的と予想

中国農業農村部は2022年10月25日、「農産物需給動向分析月報（2022年9月）」を公表した。この中で、22年9月の国産トウモロコシ価格は前月からやや上昇となった（図1）。同月の国内のトウモロコシ需給を見ると、すでに収穫を終えた新穀の一部が国内市場に向けて供給される中で、養豚を中心とした飼料向け需要が引き続き高いことから、ややタイトな状況にあるとされている。短期的には今後、新穀が大量に供給されることで価格の下げ圧力は強くなるものの、高止まりしている養豚中心の飼料向け需要に加え、22年は肥料や借地料の高騰により生産コストが大幅に上昇していることから、価格の下落は限定的と予想されている。

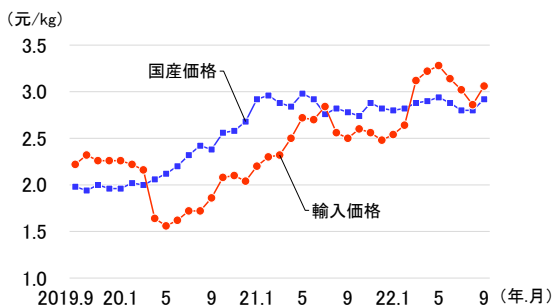
各地の価格動向を見ると、主要養豚生産地である中国南部向け飼料原料集積地となる広東省黄埔港到着の輸入トウモロコシ価格（関税割当数量内：1%の関税+25%の追加関

税）は、22年9月が1キログラム当たり3.06元（63円：1元=20.65円^{（注）}）となった。3月以降、国産価格を上回って推移していた同価格は、5月をピークに下落し、国産と輸入の価格差は小さくなりつつあったが、米国でのトウモロコシ減産予測などもある中で一転して反発した。このため、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）同2.92元（60円）に比べて同0.14元（3円）高となり、国産と輸入との価格差は再び開いている。

国産大豆価格、新穀の供給増で短期的には若干の下落と予想

2022年9月の国産大豆価格は、前月と変わらず高値安定で推移している（図2）。同月の国内の大豆の需給動向を見ると、すでに収穫を終えた新穀の一部が国内市場に向けて供給される一方で、国内の需要に大きな動きが見られないことから価格は高値安定の状況にある。また、トウモロコシと同じく大豆も生産コストが大幅に上昇したことで、生産者

図1 トウモロコシ価格の推移

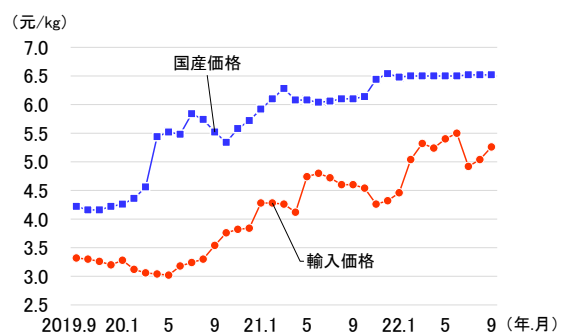


資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引渡し価格（課税後）。

の多くは価格の上昇を期待しているとされている。短期的には今後、新穀が大量に供給されることで価格の下げ圧力は強くなり、若干の下落が予想されている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、9月が1キログラム当たり6.16元（127円、前年同月比7.9%高）と引き続き高い水準にある。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同6.52元（135円、同6.9%高）と前月同ながらも高い水準で推移している。国産大豆価格と輸入大豆との価格差は、大豆国際相場の上昇などからわずかに縮小し、同1.26元（26円）となった。

このような中で、大豆の輸入量は引き続き高い水準で推移しているが、高い輸入量を記録した前年からは減少している。22年（1～8月）の輸入量は6133万トン（前年同期比8.6%減）、輸入額は世界的な穀物相場高の影響から同13.8%増の409億4800万米ドル（6兆1119億円：1米ドル=149.26円^(注)）と報告されている。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

22/23年度のトウモロコシの生産量を上方修正、大豆は変わらず

中国農業農村部は2022年10月12日、最新の「中国の農産物需給状況分析」を公表した。このうち、22/23年度（10月～翌9月）のトウモロコシの需給見通しについて、作付面積、収穫面積、生産量がいずれも前月から上方修正された（表1）。

今回（10月）の予測では、作付面積、収穫面積はいずれも前月から42万6000ヘクタール上方修正の4295万ヘクタール（前年度比0.9%減）、生産量は同275万トン上方修正の2億7531万トン（同1.0%増）となった。

この結果、輸入量、消費量に変更がなかったことで、同年度のトウモロコシの過不足は279万トンの余剰（同59.2%減）が見込まれている。

今回の上方修正については、10月に入り主産地の多くでトウモロコシの収穫作業が進む中で、確実な増産が見込まれたことによるものと推察される。22年は、トウモロコシ主産地などで干ばつや大雨による洪水などが発生したことで、現地穀物関係者からは減産との見方が出ていたが、結果として生産への影響はなかったとみられる。

一方で、大豆の需給見通しについては、収穫面積、生産量などいずれも変更がなかった（表2）。

表1 中国のトウモロコシ需給見通し（2022年10月12日中国農業農村部公表）

区 分	—単位—	2020/21 年度	21/22 年度 (推計値)	22/23年度		
				(9月予測)	(10月予測)	前年度比 (増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	41,264	43,324	42,524	42,950	▲ 0.9%
収穫面積	(千ヘクタール)	41,264	43,324	42,524	42,950	▲ 0.9%
単収	(キログラム/ヘクタール)	6,317	6,291	6,410	6,410	1.9%
生産量	(万トン)	26,066	27,255	27,256	27,531	1.0%
輸入量	(万トン)	2,956	2,200	1,800	1,800	▲ 18.2%
総供給量（生産量＋輸入量）	(万トン)	29,022	29,455	29,056	29,331	▲ 0.4%
消費量	(万トン)	28,216	28,770	29,051	29,051	1.0%
食用向け	(万トン)	955	965	980	980	1.6%
飼料向け	(万トン)	18,000	18,600	18,800	18,800	1.1%
工業向け	(万トン)	8,000	8,000	8,100	8,100	1.3%
種子向け	(万トン)	187	195	191	191	▲ 2.1%
その他向け	(万トン)	1,074	1,010	980	980	▲ 3.0%
輸出量	(万トン)	0	2	1	1	—
総消費量（消費量＋輸出量）	(万トン)	28,216	28,772	29,052	29,052	1.0%
差引数量（総供給量－総消費量）	(万トン)	806	683	4	279	▲ 59.2%

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

表2 中国の大豆需給見通し（2022年10月12日中国農業農村部公表）

区 分	—単位—	2020/21 年度	21/22 年度 (推計値)	22/23年度		
				(9月予測)	(10月予測)	前年度比 (増減率)
作付面積	(千ヘクタール)	9,882	8,400	9,933	9,933	18.3%
収穫面積	(千ヘクタール)	9,882	8,400	9,933	9,933	18.3%
単収	(キログラム/ヘクタール)	1,983	1,952	1,961	1,961	0.5%
生産量	(万トン)	1,960	1,640	1,948	1,948	18.8%
輸入量	(万トン)	9,978	9,102	9,520	9,520	4.6%
総供給量（生産量＋輸入量）	(万トン)	11,938	10,742	11,468	11,468	6.8%
消費量	(万トン)	11,326	10,788	11,287	11,287	4.6%
搾油向け	(万トン)	9,500	9,054	9,477	9,477	4.7%
食用向け	(万トン)	1,420	1,355	1,432	1,432	5.7%
種子向け	(万トン)	76	79	78	78	▲ 1.3%
その他向け	(万トン)	330	300	300	300	0.0%
輸出量	(万トン)	6	8	15	15	87.5%
総消費量（消費量＋輸出量）	(万トン)	11,332	10,796	11,302	11,302	4.7%
差引数量（総供給量－総消費量）	(万トン)	606	▲ 54	166	166	▲ 407.4%

資料：中国農業農村部

注：年度は10月～翌9月。

（調査情報部 横田 徹）